

『剖検で証明された筋萎縮性側索硬化症の 予後規定因子の解析』

お知らせ

1. 実施目的について

当院では代表的な難病のひとつである筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者さまを多く診療しています。その中で一部の患者さまとご家族の尊い同意の下、この病気の原因・病態解明と治療法開発に貢献すべく、亡くなられた後に病理解剖(剖検)という方法で診断の確認や合併症、直接死因等の分析などを行っています。

今回、より正確で質の高い医療を提供する基礎資料とするために、剖検によって ALS と証明された患者さまの診療録から、背景、臨床経過、合併症等の、予後規定因子について検討します。これによって、ALS 診療において予後に影響する重要な因子を明らかにし、より質の高い医療を提供することを目的とします。

2. 実施内容について

方法は、2007 年から 2016 年度末までに当院で亡くなられ、剖検によって ALS と証明された患者さまのカルテを調べて、その方の年齢・性別や病気になったときの状態と症状の経過、栄養・呼吸状態、療養環境、その後の経過についてまとめ、その傾向を分析します。

カルテを実際に調べる作業を行う期間は、これより 2018 年 3 月末までです。

3. 研究代表者

駒井 清暢 (医王病院院長 診療部・神経内科)

4. 調査対象期間

2007 年 1 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までを調査対象期間とします。

5. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、個人が特定できないデータに変換された上でデータファイルが作成保存、分析されます。この研究により個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして学術的な場でのみ公表します。

6. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合や、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。